

講習No.
H01
必修

教育の最新事情(中等教育)

講習の開催地
宇治キャンパス

講習の期間 平成26年7月26日(土)・27日(日)

受講料 12,000円

定員	時間数	試験方法		
100人	12時間	筆記試験	担当講師	中村 博幸(臨床心理学部臨床心理学科教授・教職担当) 竹口 等(臨床心理学部教育福祉心理学科教授・教職担当) 松田 美枝(臨床心理学部教育福祉心理学科講師) 島田 香(臨床心理学部教育福祉心理学科講師) 田中 亨胤(兵庫教育大学名誉教授・京都文教短期大学非常勤講師)

講習の概要

「教職についての省察」、「子どもの変化についての理解」、「教育政策の動向についての理解」、「学校の内外での連携協力についての理解」の4つの領域に関する教育課題について、最新の状況や動向をもとに、学校教育全体からの視点と中等教育(中学校・高等学校)の現場に絞った専門的視点から読み解く。主な受講対象者は中学校及び高等学校教諭とする。

平成26年7月26日(土)

1限 9:00~10:30(90分)	2限 10:45~12:15(90分)	3限 13:15~14:45(90分)	4限 15:00~16:30(90分)	5限 16:45~17:15(30分)
学校を巡る近年の状況変化と教育政策の動向 「学校に求められるもの、教師に求められるもの」 グローバル化する社会、多様化する社会の中で、教育に求められるものも変化し多様化している。その中で、メディア、各種報告書などをどう読み取るかを考え、さらに学習指導要領で述べられた「生きる力」、や、中央審議会の教員制度改革など、教育政策についても考える。	配慮を要する子どもたちへの個別教育・支援 特別支援教育が学校教育法に位置づけられ、障害をもつ子どもたちに対する個別的な教育や支援が行われるようになっている。本講習では、個別教育・支援の具体例を取りあげ、アセスメントや支援方法について受講者とともに考えた上で、分かりやすく解説する。	教員スタンダードとしての専門的職能性と倫理性 教員に求められる教育実践力の向上につながる基本視座について確かめる。社会変化の現実を受けとめるとともに、教員が身につける「子ども観」「発達観」「教育観」、教員としての倫理性や品格などの諸点から、専門職者としての教員のスタンダードについて省察する。	学校期の子どもにふさわしい教授・学習生活の展開 子どもの確かな育ちの諸相を明確化し、教育課程・学習指導要領において重点化されている諸点に基づく育ちのための教授・学習過程装置を想定する。これによって、教授・学習展開のストラテジーおよび教育のアカウントビリティを可視化する。	修了認定試験

平成26年7月27日(日)

1限 9:00~10:30(90分)	2限 10:45~12:15(90分)	3限 13:15~14:45(90分)	4限 15:00~16:30(90分)	5限 16:45~17:15(30分)
子どもの生活の変化を踏まえた課題 「子どもと社会のインタラクティブ性」 子どもは社会の影響を受け、またかかわる社会に影響を与える。ケータイやインターネットを軸にしたヴァーチャルな世界、参照モデルとする家庭像のない社会、その中で自立から自律していかねばならない子ども達の生活感覚を、どの様に考えればよいのかを考える。	学校における危機管理 「情報化と都市化(反地域化)の中での子どもの安全」 グローバル社会の特徴である、反地域化と情報・ネットワーク化に対して、大人は経験した既存の社会をもとに再構築していくが、その経験がない子ども達は、準備のないまま全く違う状況におかれてしまう。その事をふまえて、子どもの「安全」について考える。	生徒の心の発達と教育相談 知的にはともかく、心の発達が生活年齢に達していないために自分の感情や思考を言葉にして伝えることが難しい生徒が増えてきている。そのような生徒たちの見立てと対応について、主に教育相談での実践を中心に述べていきたい。	学力向上を核とした学校・家庭・地域の連携 学力格差が一層深刻化する現在、その要因と克服のための調査・研究動向を踏まえ、各々の果たすべき役割と連携の在り方について考察する。 1. 社会的不平等に対する学校の教育効果 2. メリトクラシーとベアレントクラシー 3. 「効果ある学校」「力ある学校」の社会背景 4. 「ソーシャルキャピタル」への期待	修了認定試験